

# 一般社団法人 岩手県作業療法士会 活動

私たち、岩手県作業療法士会は、岩手県内に勤務する作業療法士 約650名で組織する団体です。岩手にお住いの方々が健康で豊かな暮らしができるよう、リハビリテーション専門職の役割で、地域社会を支えます。

## 技術と知識のレベルアップのための学会・研修会

- ※ 研究報告・対象者への作業療法士の取組みを発表する学会
- ※ 医療・介護に従事するリハビリ専門職としてのスキルアップ
- ※ 基礎から専門分野までを学ぶ研修会
- ※ 生活行為向上リハビリテーションの推進
- ※ 認知症へのサポートとリハビリテーションの推進



## 保健医療福祉専門職との連携研修・意見交換

- ※ すべてはリハビリ対象者の地域での安心な暮らしのため「他職種連携研修会」
- ※ 看護師・保健師・ケアマネジャー他、生活の支援者同士が顔の見える連携を作るための意見交換



## 中学校や高校での学校訪問講座

- ※ 障がいをもたれた方の“生きる”を支える作業療法士の仕事の講話
- ※ 医療福祉、障がい者や高齢者の理解を深めるための授業
- ※ 進路相談や職業ガイダンス



## 市町村主催の介護予防事業・家族向け介護講習会

- ※ 在宅介護をされている介護者向けの講習会
- ※ 地域包括支援センター等で運営する介護予防事業
- ※ 安全安心な在宅生活を過ごすための工夫・環境整備
- ※ 介護専門職向けの研修会



私たちは、中学校・高校での社会教育、県内各市町村のまちづくり事業のお手伝いをさせていただきます

- 中学生・高校生向けの職業や進路ガイダンス、障がい者・高齢者福祉に関する授業・講座
- 市町村・地域包括支援センターでの介護予防、認知症予防、家族や介護者向けの各種事業
- その他、作業療法・リハビリテーションに関するご要望に広く対応

一般社団法人岩手県作業療法士会機関誌「不來方」号外版

### 「私たちは作業療法士です」

発行：一般社団法人岩手県作業療法士会  
発行日：2015年4月28日  
作成：広報部事業部合同チーム  
発行人：達増 浩幸 編集人：藤田 淳

●問い合わせ先

一般社団法人岩手県作業療法士会事務局  
いわてリハビリテーションセンター作業療法科内

〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森16-243 TEL/FAX 019-691-1588

HPIは   でご検索ください

～ご利用の際はお気軽にご連絡ください～

# 私たちは リハビリテーション専門職 作業療法士です



私たちの生活は、日常生活における身の回りのことができるだけでなく、趣味、生きがい、社会参加などその人にとって『**意味のある、したいこと**』を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、元気に充実した生活を送ることができています。



老化や障害を持ちながらも心身ともに充実した生活を送るためには、『**私のしたいこと**』を自分自身で決め、それを実行に移せることがとても重要です。

## 作業療法士は

- ☞ 疾病や老化・認知症・小児期の発達などによる生活機能の障がいをもたれる方が、いきいきとした暮らしを送ることができるよう、医療・介護・福祉の領域で支援します。
- ☞ その人が『**生活するうえで困っていることや問題を感じていること**』で、『**やってみたい!**』『**もっとうまくできるようになりたい!!**』と思う生活行為を再び出来るように支援します。

まかせて  
ください!!

# 生いきい活いきいした

# 地い域いづいくいり



## 「介護予防への取り組み」

内丸病院訪問看護ステーション  
認定作業療法士 大久保 美也子

日本は諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進行しています。2035年には人口の3人に1人が高齢者になると推計されています。

そういった状況を背景に「介護予防」への注目が高まっています。

介護予防の目的の一つは、高齢者が要介護状態等になることの予防（生活機能の維持向上、低下発見）です。県内の市町村や町内会から私たち作業療法士への介護予防教室依頼も増えています。依頼内容は、認知症予防、生活不活発病予防、転倒予防等、多岐にわたります。

目的の二つ目は、要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止（要介護改善、重度化予防）です。在宅で家族の介護を受けながら生活されているAさんを例に、悪化防止への取り組みについてお伝えします。

難病を抱えるAさんは殆どベッドに横たわった生活をされていました。訪問で担当し困っていること、生活への希望をお聞きすると「自分でご飯が食べたい」と強い希望を持っていました。少しでも自力で食事が出来るように、私は座る練習、手を使う練習を行いました。そして、多職種と相談し本人の座る機能を伸ばすタイプのテーブルや、柄に工夫が施されたスプーンを選びました。そのことがきっかけとなり、座る時間は1日30分から4時間に改善しました。今では「自分で料理してみたい!」と、自分でやってみようとする意欲がますます湧いています。

運動を積極的に行うことが難しい方でも、身体と気持ちが前向きになること、現在持っている残存能力を最大限に発揮することが悪化防止につながることをAさんから教わりました。

私たち作業療法士は「心身機能（心と身体の働き）」「活動（実用歩行、食事、入浴、調理、仕事、趣味等）」「参加（家庭や社会での役割）」それぞれの相互作用を考え、働きかけることを意識しています。

何歳になっても、その方が持っている能力を活かし、その方らしく生きていけるよう、これからも介護予防に取り組んでいきます。



Aさんはその後、念願の調理、煮しめ作りに挑戦しました

## この仕事をえらびました!! 岩手県立南光病院 作業療法士 田村 佳祐



私は、高校で進路を決めると時に「人と関わる仕事がしたい」という気持ちが強くありました。一人ひとりの生活史と向き合い、その人にとって意味のある作業を用いて関わる作業療法士に魅力を感じ、リハビリテーションの世界に飛び込むことに決めました。

対象者とともに目標を目指していくことにやりがいを感じています。作業療法士は様々な障がい領域、医療や福祉に問わず活躍でき、一生をかけて極め続けられる素晴らしいものだと思います。



## 地域で活動する作業療法士

介護老人保健施設 気仙苑  
気仙地域リハビリテーション広域支援センター  
主任 作業療法士 清水 陽平



私は、岩手県から地域リハビリテーション広域支援センター（以下、センター）の指定を受けている介護老人保健施設（入所152床、デイケア75名、デイサービス15名）に勤務しています。入職時から転倒予防・介護予防教室に加え、老健業務以外のセンター業務により地域支援に携わっております。気仙地域（大船渡市、陸前高田市、住田町）においては、超高齢化社会に向けた「住み慣れた地域づくり」と並行しながら震災後の「まちづくり」も併せて考えなければなりません。住民個々の「生活」を支えるには、その人の生活に目

を向けることからはじまり、あらゆる機関や組織、専門職だけでなく家族や近隣住民などと共同していかなければならないと考える。地域社会においては「作業療法」の認知度はまだまだ低いのが現状ですが、生活する人の視点に立ち、作業療法士としての専門性から、将来の見通しをつけながら支援することで、生活がどうか変わっていくのかということをもっと広く知ってもらおう努力をしていかなければならないと考えております。センター事業を通じて、地域住民の医療や福祉、介護の従事者らの知識・技術向上を図ると同時に顔を合わせる機会として、30回を超える研修会を開催（平成26年度）し、各種会議や地域での催しなどで作業療法士の専門性を伝えるとともに、「顔の見える」関係作りを重点を置きながら活動してきました。今後、更に「地域に根付いた顔見知りの関係」へと発展させ、子供から高齢者までの全住民が安心して住み続けられる地域を目指し、作業療法士も地域を支える関係者の一人として欠かせぬ存在となれるよう、積極的に「まちづくり」へ参画していきたいと考えております。



## 障がい者スポーツと作業療法士

岩手県立千厩病院  
作業療法士 今宮 正彦



2016年に開催される希望郷いわて大会（全国障がい者スポーツ大会）に向け作業療法士は選手

の支援活動を行っています。障がい者スポーツにおける具体的な支援としては ①トレーナーとして選手のコンディションを整える ②心理的・精神的なサポートをする ③コーチとして選手の育成をする ④競技区分委員として活動する ⑤大会でコンディショニンググループを担当する などが挙げられます。

希望郷いわて大会に向け身体的側面へのケアだけでなく、強化練習会で運動中の動作分析を行い、ケガを起こさない、記録が伸びる動作の指導、適正な運動量の判定、心理的・精神的な配慮、食事の管理などの支援も作業療法士に期待されています。

希望郷いわて大会以外の障がい者スポーツにも多くの作業療法士が支援を行っておりますが、仕事以外の時間を使いボランティアとして活動しているのが大半です。しかし、選手の能力を最大限に発揮するために日常生活から支援ができる、作業療法士の存在は選手にとっても重要なものとなっています。

2016年希望郷いわて大会に向け、多くの方に障がい者スポーツについて関心を持って頂き、選手をサポートできる体制を確立し、希望郷いわて大会終了後には障がい者が普通に地域でスポーツを行える環境が整備できるように支援活動を続けていきたいと考えます。

